

埼玉アーツアター通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.90

2020.12-2021.1



小川絵梨子

松井周

林家彦いち

ディミトリス・パパイオアヌー

ユナイテッド・ユーロ・ブラス・クインテット

イーヴォ・ポゴレリッチ

蜷川さんの稽古場は驚きの宝庫だ。何かが蜷川さんに「降りてきた」としか言えない瞬間がある。

振り返ってみると、そんな数々の驚きのなかでも、一番びっくりしたのは『リチャード三世』の立ち稽古初日、宇崎竜童さんのビートの効いた音楽に乗って、下手奥から白馬が疾駆してきたときだ。わっ、馬！

『リチャード三世』の翻訳に実際に取り掛かる前から私は、この並外れた主人公の舞台上での人生はNow（さあ、さて、今）で始まり、a horse（馬）で終わるということを肝に銘じ、日本語でもそうしようと決めていた。

実は、まだ自分がシェイクスピアの戯曲を訳すことなど夢にも思わなかったころ、『リチャード三世』について書いたことがあり、そこでもこの決めゼリフ、A horse, a horse, my kingdom for a horse! を引用し、「馬を引け、馬を！ 馬のかわりに俺の王国をくれてやる！」と訳した。

だが、いま言ったように、この文は舞台のためには原文の語順で訳するのが効果的だと思い、「くれてやる」ではなく「馬」で終わらせることにしていたので、「馬、馬をよこせ、代わりに俺の王国をくれてやる、馬だ」とした。

稽古が始まってすぐのころ、主人公リチャード役の市村正親さんにそのことを話した。市村さんは深く共感してくれてこう言った、「だったら最後の『だ』は無いほうがいいよ」。ありがとう、市村さん。おかげで、言わば私の思い切りの悪さの尻尾である「だ」を省く決心ができました。

ところで、劇の視覚的序曲とも言うべき裸馬の登場を、蜷川さんはなぜ思いついたのか。立ち稽古を前にした蜷川さんは、「ただ独白から始めるのはつまらない、どうするか」と考え、演出部が用意して並べておいた道具を見ながら稽古場をぐるぐる歩いていたそう。そして、馬の頭と胴体が目に止まり、「これだ！」とひらめいたとか。

「どうして？」という私の問いに、「リチャードは馬に乗りたかつたんだろうなと思ったから」という余りにもフツの答えにこちらは拍子抜けした。蜷川さんの真意は奈辺に？ と思いを巡らせているうちにピカッ。そうか、生まれつき脚が悪く、歩くことすら思いのままにならないリチャードにとって、馬は彼の下半身そのものののだ！

硝煙を思わせるスモークが暗く立ち込める中、市村リチャードが「うまあ！」という最後のひと声を発しながらぎくしゃくと歩み去るその背中からは、限りなく哀切だった。



彩の国シェイクスピア・シリーズ第3弾
『リチャード三世』（1999年）市村正親 Photo◎池上直哉

Kazuko Matsuoka

翻訳家。彩の国さいたま芸術劇場シェイクスピア企画委員会委員。翻訳家、演劇評論家。彩の国シェイクスピア・シリーズの翻訳を担当。ちくま文庫から「シェイクスピア全集」を刊行中、既刊は36作、6月『ジョン王』を刊行した。



『蜷の綿-Nina's Cotton-』リーディング公演（2019年） Photo◎宮川舞子



『聖地』（2010年） Photo◎川口和子

CONTENTS

- | | | | | | |
|----|---------|--|----|------------------------------------|----------------------------------|
| 4 | PLAY> | さいたまネクスト・シアター リーディング公演
『作者を探す六人の登場人物』 | 14 | MUSIC> | ユナイテッド・ユーロ ブラス・クインテット |
| 6 | PLAY> | さいたまゴールド・シアター第8回公演
『聖地2030』 | 16 | MUSIC> | イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル |
| 8 | RAKUGO> | 彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家彦いちと新春若手落語会 | 18 | REPORT> | 彩の国シェイクスピア講座 番外編
『リア王』勉強会&上映会 |
| 10 | DANCE> | 『Duplex』Noism0 / Noism1 | 19 | REVIEW | |
| 12 | DANCE> | ディミトリス・パパイオアヌー新作 | 20 | イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ | |
| | | | 24 | COLUMN> | 林家彦いちの一歩外へ、 |



文化や時代を越えて届く、 普遍的な作品に

さいたまネクスト・シアター リーディング公演
『作者を探す六人の登場人物』

小川絵梨子 Interview

さいたまネクスト・シアターによる朗読劇を、話題の舞台を次々と手がける気鋭・小川絵梨子が演出！
人と人の関係を繊細に、人間の内面を緻密に描く小川と、蜷川幸雄が育てたネクスト・シアターの出会いとなる作品は、
イタリアの劇作家ルイーダ・ピランデッロの戯曲だ。

取材・文 ● 上野紀子（演劇ライター） Photo ● 宮川舞子

小川絵梨子
Eriko Ogawa

2004年、アクターズスタジオ大学院演出部卒業。2006～2007年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。2018年9月より新国立劇場の演劇芸術監督に就任。近年の演出作品に、『じゃり』『ART』『タージマハルの衛兵』『死と乙女』『骨と十字架』『WILD』『熱帯樹』『スカイライト』『出口なし』『1984』『マクガワン・トリロジー』『FUN HOME』『The Beauty Queen of Leenane』『死の舞踏／令嬢ジュリー』『RED』『スポケンの左手』など。

——今回はコロナ禍をふまえて急遽、奇跡的に実現した企画だと伺っています。

もともと私、今年の後半に演出の仕事を入れていなかったんですね。でもコロナによって春に準備していた作品がなくなってしまい、さらにお休みが延びてしまったように実感して。自粛の期間、休んでいる場合ではないなという気分になったり、自分は何の役にも立てていないとイライラすることもありました。そんな中、埼玉の制作の方から「ネクスト・シアターの俳優たちと、朗読劇をやってほしい」というお話をいただいたんです。自分に出来ることは何だろう、何かの役に立つ機会をいただけるならやりたい！とお受けしたのが正直な気持ちでした。

——ネクスト・シアターにはどんな印象を持っていますか？

やっぱり、蜷川さんのもとで学んだ人々というイメージはありますね。公共劇場にネクスト・シアターとゴールド・シアター、その両方があるのは素敵だな、大事なことだと思っていた。蜷川さんの作品は結構観ていまして、これは私の勝手な分析ですけど、蜷川さんは商業の中にちゃんと芸術を持ち込む、その流れを作った方だと思っています。大衆性と芸術性、その両方を備えた舞台を開拓してくださった方という印象です。ネクストの皆さんとはこれからお会いして、ワークショップをやらせていただきながら稽古を進めていければと。若い人たちがどんどん自由に挑戦していくこと、それが大事なので、一緒にチャレンジさせてもらえるのは嬉しいです。

——挑むは、イタリアの劇作家ルイーダ・ピランデッロが1921年に発表した『作者を探す六人の登場人物』です。この戯曲を選んだ理由は？

ピランデッロの作品が好きで、いつかやってみたいと思っていた戯曲でした。これ、役者さんたちのほとんどが出ずっぱり、台詞があってもなくてもつねに舞台にいくちゃいけないという作品なんです。私、そういう一度出たら最後まで！（笑）っていう、『十二人の怒れる男』みたいな作品が好きなんです。今回は、私が普段どのように台本にアプローチしているかをネクストの皆さんにお伝えできる機会だと理解しているので、そうなるにあんまり

ポエティックな、非常に感性豊かに書かれているホンだと、私が持っている論理では太刀打ちできないところがあって。やはりリアリズムをベースとする戯曲で、自分がきちんとその趣旨に応えられるものを探さなきゃと思い、いろいろ精査したうえでこ



の戯曲に決めました。決め手はまず面白いホンだということ、登場人物が多くて今回の参加者全員が出られること。そして、現代演劇の原点みたいな作品なんですよ。演劇論、芝居とは何ぞやといった話であるところがいい。で、芸術がどうこう～と言いつつ、それだけじゃないぞ、とも語っていて。理想と、本当に生々しいものがぶつかり合うところが面白いんです。ただ、何せ難しいホンなので、まだ自分の中で引き寄せきれていない点があります。ラストに向かって「あ～これ、私の苦手な“演出の主張”が入ってくる！ どうしよう～」みたいなところもあるので（笑）、なんとか自分の中で落としどころを掴んでいかねばと思っています。

現代演劇の原点みたいな作品

——小川さんが感じているピランデッロの魅力を教えてください。

シアトリカル（演劇的）で、絶対に普遍的なことしか書かない人ですね。この『作者を探す～』にしても、実はすごく地に足の着いた話なんです。そこがいい。どんなにシアトリカルに、キャッチーに書いていても、根底がしっかりしている。『花を口にした男』（1923年）とか、短編にもいい作品がたくさんあります。人間の心理、人と人との関わりについて書くことが多いので、100年前に書かれたものであっても、文化や時代を越えて非常に共感しやすいと感じています。

——朗読劇としてどう立ち上がるのか楽し

みです。世の中はまだ落ち着いてはいませんが、多くの方が小川演出とネクストとの化学反応に期待し、劇場にいらしてくださるのでは。

今までも劇場に足を運んでくださることに感謝していましたが……、これは（芸術監督を務める）新国立劇場の話で申し訳ないのですが、自粛期間の後、最初に開けた公演にお客様が来てくださった時は、感動しましたね。本当に嬉しかったし、勇気をいただきました。今回の機会を作ってくださったこと、関わってくださる人たちに感謝して、いい意味でフラットにやれたらいいなと思っています。戯曲の面白さも、役者さんの素敵さも伝えられるよう、精一杯やるつもりです。人間同士、その関係の面白さを感じていただけたら嬉しいです。

『作者を探す六人の登場人物』

Story

ある劇団が芝居の稽古をしていると、ひと組の夫婦、その息子と美しい娘、少年と少女という6人の人物たちが訪ねてくる。彼らは自分たちが、作者に見捨てられて行き場がない登場人物で、ドラマを完成してくれる新しい作者を探していると訴え……。

チケット販売中

さいたまネクスト・シアター リーディング公演
『作者を探す六人の登場人物』

12.25(金)～27(日)

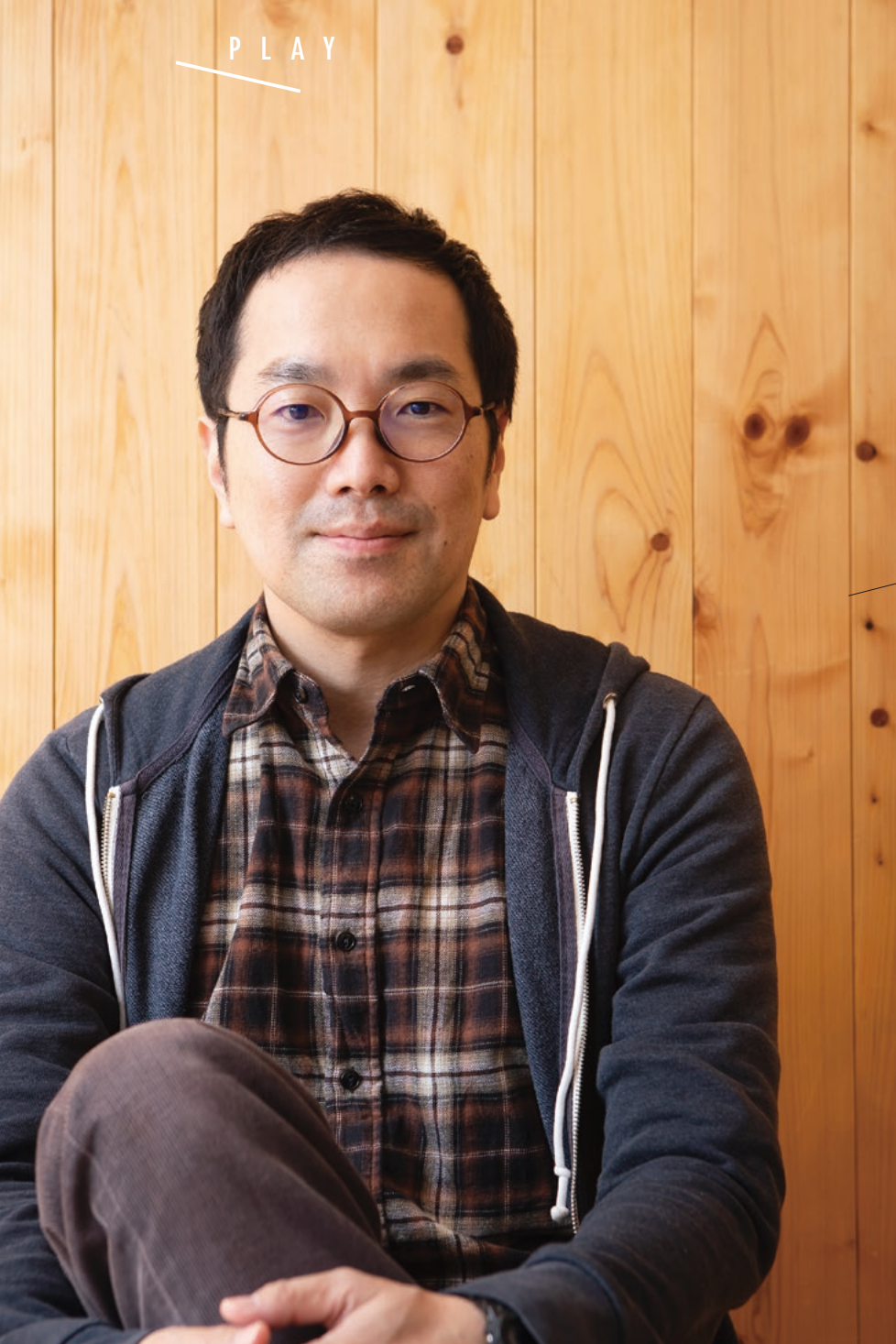
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

	12/ 25 金	26 土	27 日
13:30		●	●
18:30	●		

【作】ルイーダ・ピランデッロ
【翻訳】白澤定雄
【演出】小川絵梨子
【出演】さいたまネクスト・シアター
周本絵梨香、鈴木彰紀、豎山隼太、手打隆盛、堀 源起、松田慎也、茂手木桜子、中西 晶、横木淳平、阿部 輝、井上夕貴、佐藤 蛍、銀ゲンタ、鈴木真之介、高橋英希

チケット(税込) 全席指定
一般3,000円 U-25* 2,000円 メンバース2,700円

*U-25：公演時、25歳以下の方が対象です。
入場時に身分証をご提示ください。



松井 周 Shu Matsui

劇作家・演出家・俳優。1972年生。東京都出身。1996年劇団「青年団」に俳優として入団、2007年に劇団サンプルを結成。作家・演出家としての活動を本格化させる。2011年『自慢の息子』で岸田國士戯曲賞を受賞。2016年『離陸』で2016 Kuandu Arts Festival (台湾)に、2018年『自慢の息子』でフェスティバル・ドートンヌ・パリ (仏)に参加した。近作ではKAAT 神奈川芸術劇場プロデュース『ピピを見た!』の上演台本・演出、inseparable『変半身(かわりみ)』(共同原案：村田沙耶香)の原案・脚本・演出がある。12月、書き下ろし新作ホリプロ『てにあまり』(演出：柄本明)が上演予定。

——『聖地』は2010年に初演されました。初演についてどのようなことが印象に残っていますか？

当時、戯曲だけを依頼されて書くのが初めてだったのと、蜷川さんが演出されるということで、「とにかく物語が書きたい」と思い、お引き受けしました。ただ40人以上の群像劇は書いたことがなかったので、戯曲を2本書くつもりで書き始めて。

——蜷川さんとは何かお話しされましたか？

すごく緊張して会いに行ったのですが(笑)、蜷川さんはずっとニコニコしながら「好きなように書いてください。僕は本当に書かれた通りにやるので」とおっしゃって。実際、その通りでしたね。ゴールド・シアターについては、『アンドウ家の一夜』(ケラリーノ・サンドロヴィッチ作・2009

年)の印象が大きかったです。蜷川さん含めプロンプターが上演中も舞台の周りにいて、セリフが出てなくなると助けるんです。その様子に生命がそのまま見える感じがして、それで“死ぬことを期待されている人たちがバリエードを作って反乱を起こす”という『聖地』のイメージが浮かび上がりました。

——今回は演出も手がけられます。10年ぶりに作品と向き合ってお感じになったことは？

ものすごくシンプルに、時代が悪くなってきたと感じました。初演は東日本大震災前でしたし、新型コロナウイルスのことなどさまざまなことがあって、「自分の考えはこうだ」と主張することすら厳しい状況になってきているなど。また当初はなるべく初演通りに演出する考えを持っていたのですが、10年経ってゴールド・シアターの皆さんが歳を重ねられていること、現在は大勢が集まって稽古・上演することが難しいことなどから、シンポジウム形式にしてはどうかと考えていて。ゴールド・シアターのメンバー以外にも出演してもらい、演劇的な部分とその場で生成される即興的な部分を混ぜて作りたいと考えています。

追い立てられつつも、 人は何に“欲望”するのか

——『聖地』のベースとなる“安楽死”の問題が、シンポジウムのテーマに引き継がれるのでしょうか。

そうですね。現在、すでに安楽死が認められている国もありますが、死も自己決定するという捉え方は今の感覚に非常にフィットすると思うのです。その一方で、社会にとって“用済み”と烙印を押された人たちが死に誘導する国家戦略として、「子孫のために、誰かに迷惑をかける前に死ぬのが“おしゃれ”だ」という考えが打ち出され、大義名分のもと大量虐殺が行われる危険性もあると思っています。また植松聖(相模原殺傷事件の犯人)のように自分とは全然関係ない人の死を願う感覚とか、遺伝子診断など一見合理的なようで一面的な診断など、社会全体が他者に対して想像力を省略する傾向が、この10年ますます強まっていると感じていて、そんな“日本の今”を描きたいと思っています。

——社会から排除された人たちの行方は松井さんがずっと書かれている視点だと思いますが、今回は『聖地』というタイトルがよりシニカルに響きそうです。

そうかもしれません(笑)。今回は台本に従って演じるというよりは、いくつかのトピックを立ててそれについて話していく感じになると思います。例えば安楽死を受け入れる人と反対の人に自分たちの考えを話してもらいつつ、そこへさまざまな条件を加えていくことで、さらに思考を深めていくというか。コロナの状況によりまだ決められないことも多いのですが、そこは蜷川イズムっていうか(笑)。『アンドウ家の一夜』で「どんな形でも舞台にのせる」という蜷川さんの思いを感じましたので、僕

も「どんな形でもやってみる」ということには挑戦したいと思っています。

——11月上旬に、ドラマタージの小泉明郎さん(映像作家)、セノグラフィーの杉山至さん(舞台美術家)と打ち合わせされたそうですね。

めちゃくちゃ面白かったです。小泉さんは劇場の威圧感について大きく反応されていて、議会のようにでもあり刑務所のようにもあると。そうしたら至さんがルネッサンスやバロック時代の劇場史について語り出して……(笑)。劇場に入っただけでいろいろ二人からアイデアが上がってきました。——本作の直前に、松井さんが脚本を書き下ろされた四人芝居『てにあまり』も東京芸術劇場で上演されます。



コロナによって考えていたことが、『てにあまり』にも本作にも、それぞれ分かれて入ってくるような感じがしています。人間がどこか追い立てられている感じがかり、でも追い詰められつつも人間は「何かしたい」という欲望があるんですよね。欲望は希望でもありますから、その「何かしたい」という思いについても『聖地』では語ってみたいと思っています。

生命への想像力を失った“日本の今”を見つめ直す さいたまゴールド・シアター『聖地2030』

松井 周 Interview

2月、さいたまゴールド・シアターによる、およそ3年半ぶりの本公演が上演される。

脚本・演出は、2010年の第4回公演『聖地』を書き下ろした松井周。安楽死法が施行された近未来、とある高齢者施設を舞台に、居場所を失った高齢者たちの怒りや悲哀を描き出した同作が、大胆にアレンジされ、シンポジウム形式の演劇となってよみがえる。

取材・文 ● 熊井 玲 Photo ● 片山貴博



『聖地』(2010年) Photo ©宮川舞子

チケット発売日 一般 12.20(日) メンバーズ 12.19(土)

さいたまゴールド・シアター第8回公演
『聖地2030』

2021年2.11(木・祝)～21(日)〈全10回〉
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

	2/11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	木・祝	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
13:30			●	●		●	●	●		●	●
17:00	●										
18:30		●							●		

【脚本・演出】松井 周
【出演】さいたまゴールド・シアター
得丸伸二、大竹 直、高橋義和、菅原直樹、佐藤 蛍(さいたまネクスト・シアター) ほか
※さいたまゴールド・シアターは複数のグループに分かれて日替わりで出演予定です。詳細は決まり次第財団ホームページでお知らせします。

チケット(税込) 全席指定 一般4,000円 U-25* 3,000円 メンバーズ3,600円
*U-25: 公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証をご提示ください。
※後日配信予定あり

柔道部出身で極真空手の経験者、“落語界の武闘派”と呼ばれ、無類のアウトドア好き……落語家には珍しい、アクティブな存在感を発揮する林家彦いち。舞台に颯爽と登場し、オリジナリティーあふれる奇想天外な世界を力強く立ち上げる、見ていて気持ちいい高座姿が印象的だ。1月開催の「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」へのオスメコメントを求めると、「年初めに『彩の国さいたま寄席』で笑えばご利益があります！……で、いかがでしょう？」と笑う。

落語界では中堅世代だが、新作を次々と前のめりで送り出す情熱は、若手時代から変わらない。2006年に彩の国落語大賞を受賞し、翌年開催された「平成18年度 彩の国落語大賞受賞者の会」では初期の代表作『掛け声指南』を口演した。同作の主人公は、日本でボクシングのトレーナーを目指すタイ人のムアンチャイ。彼が時にコミカルに、時に必死に、言葉と文化の壁にぶつかりながら前進する姿は、どこか演者自身にも重なる。「女三四郎」の異名を持つ柔道選手トモエちゃん（『青量の女』）、島育ちで都会に戸惑う安田くん（『長島の満月』）、バサバサッと東京上空を翼を広げて寄席に向かう落語家（『つばさ』）……“彦いち落語”のキャラクターはみんな、ゼロから創造する新作の苦楽を乗り越える、たくましい仲間たちだ。落語界ではまだ数少ない新作派として、昨年、芸歴30周年を

迎えた。

「30周年……来月のネタ下ろしのことだけを考える日々を、ただ繰り返しただけのような気がしますね（笑）。ただ、人に喜んでもらえることと、自分がやりたいことのバランスをしっかりと考えて、その折り合いを見つける作業は楽しい。そこは惜しみなくやってきた30年だったと思います。よく考えてみれば、お話をつくってご飯を食べるなんて、何が根拠かも分からない仕事ですよ。でも、落語に限らずどのジャンルでも、すでにあるイスをほしがる人が多いじゃないですか。やっぱりイスは自分で作るべきなんだと。（落語中興の祖として有名な）三遊亭圓朝師匠だって新作の人だったわけです」

**芸人の力が試されている
この大変な時期を、面白がりたい**

新型コロナウイルスの感染拡大で寄席も休業となり、落語界が静まり返っていた春先には、収入減で不安を抱えた弟子たちにマスクをつくらせた（現在は販売終了）。商品名は「前座マスク 師匠の飛沫を止めた」。長野県下諏訪の町工場の協力を得て、1番弟子のやまびこが製造、3番弟子のひこうきが受注・メール返信、2番弟子のきよひこが梱包・発送と、完璧なフォーメーション！

「弟子のネタにもなりますし、まあ、シャレ

です（笑）。コロナの影響で大変ではありますが、落語はミニマムで、ソロキャンプみたいなもの。人によるとは思いますが、僕の周囲は呑気で明るいです」

ここ数カ月ですっかり落語ファンにもお馴染みとなった「オンライン落語会」にも出演している。Zoomを利用した“観客の顔が見える”会では、さまざまな画期的な試みが生まれた。特に、高座で質問を投げ、観客が文字を書いたスケッチブックで一斉に回答、答えが嘶に取り込まれるという参加型の趣向は秀逸。一方通行になりがちな

オンラインに工夫を加えれば、相互関係が生まれる。「配信会場では高座の前に大きなスクリーンを置いてもらって、お客さんの顔が映るようにしてもらっています。皆さんは自宅でマスクを外していますから、笑顔がちゃんと見えてイイもんですよ。画面越しに全員で乾杯したのも面白かった。1回目は音も入れたんですが、今は全部ミュート（消音）にしています。というのも、ピンポン、ワンとかニャン、ドンガラガッシャーン……あちらの生活音が全部こちらに届い

ちゃう（笑）。この大変な時期を面白がれるといいなというか、自分なりにできることは一通りやっておきたいと思っています。芸人の生き方が試されているんでしょう」

新作のイメージが強い彦いちだが、実は古典も面白い。「お話をつくる人」はアレンジも自在で、現代人にスッと届く語りができる。

「古典を演じるのも好きですね。覚える時はちゃんと筋を通して先輩や仲間には習いにいきます。『どうせ変えるんではよ、自由にやってよ』って言われますけど（笑）、教

わるとテクニックが習得できますし、その人が大事にしているものが分かって、知らなかったことが学べる。稽古で人の話を聴くのは面白いんです」

古典の知恵も柔軟に吸収し、ますます自由に豊かに変化し続ける彦いちの物語世界。近年は、見慣れた風景がひょんなことでパラレルワールドと接続し、日常からふわっと非日常に誘われるような、SF的摩訶不思議な新感触の新作が誕生している。「今は『お客様が疲れない新作』を心がけています。『このアイデアはどれぐらい届くかな』って、ネタ下ろしはいつだって緊張するしコワイですよ。だから終わった瞬間が一番嬉しい（笑）。でも、自分の腹に落ちているアイデアというか、心の底から面白いと思った発想ってちゃんとウケるんです。そうしたものを形にしている時は、やっぱりワクワクするんです」

連載「林家彦いちの“一歩外へ”」はP.24

チケット販売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家彦いちと新春若手落語会

2021年**1.16(土)** 14:00
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[出演] 林家彦いち(ゲスト)、桂三木助、古今亭志ん五、春風亭昇吉

チケット(税込) 全席指定 一般 3,200円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,100円 メンバーズ 2,700円

※開場は開演の1時間前
※座席の間隔を空けるため、販売席数を通常より縮小いたします。
※年末年始期間のメンバーズチケットご購入についてはP.23をご確認ください。



平成18年度 彩の国落語大賞受賞者の会 Photo ©加藤英弘

林家彦いち
Hikoichi Hayashiya

1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる「NHK 新人演芸大賞落語部門」で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。TBSラジオ「久米宏 ラジオなんですけど」で披露していた、選りすぐりの小噺をまとめた著書「瞠目笑」（パイ インターナショナル）が発売中。

自分がワクワクしたアイデアを観客に届ける
「彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家彦いちと新春若手落語会」

林家彦いち

Interview

2021年最初の「彩の国さいたま寄席 四季彩亭」は、「林家彦いちと新春若手落語会」で賑々しくスタートする。“芝浜の三木助”として知られた三代目の孫で、四代目の甥であるサラブレッド五代目桂三木助、古典も新作も手掛けるバイプレイヤー、ふんわり心地よい芸風の古今亭志ん五、初の東大出身落語家で2021年5月に真打昇進が決まっている春風亭昇吉ら若手のホープが集結。ゲスト出演は、芸歴31年目を迎えて芸の充実期を迎える、新作派の林家彦いちだ。

取材・文 ● 川添史子 Photo ● 山出高士 撮影協力 ● 鈴木演芸場

大成功だった Noismさいたま芸術公演

金森穰率いる「日本唯一の公共劇場のレジデンス・カンパニー」であるNoism (Noism Company Niigata) は、プロフェッショナルな身体性に高い芸術性、そしてときにユーモアのセンスも効いた作品で老若男女を魅了する。今年1月の彩の国さいたま芸術劇場で行われたダブルビル公演でも、多くの観客を魅了したばかりである。そんな彼らが来年2月、新作を持って再び帰ってくる。

現在Noismは3部体制になっている。メインカンパニーのNoism1、ヤングカンパニーのNoism2、そして昨年設立さ

れたプロフェッショナル選抜カンパニーNoism0。さいたま芸術の公演は、Noismのふたつのプロフェッショナル・カンパニーの公演であり、彼らの魅力を余すところなく堪能できるだろう。

今年のダブルビル公演では、ゲスト振付家として迎えられた森優貴が新作『Farben (ファルベン)』をNoism1 + Noism0に振り付けた。森はドイツ・レーゲンスブルク歌劇場ダンスカンパニーの芸術監督を務めた実力を誇る。『Farben』は隔々にまで音楽が鳴っているような作品だった。群舞ひとつとっても、日本にありがちな体的にピシッリ合わせるのではなく、なんとも柔らかくまろやかな動きの快感がある。金森が鍛え上げたNoismのダンサー達の新た

な魅力を引き出してみせていた。

もうひとつ金森穰『シネマトダンスー3つの小品』は映像を使った3作品だった。様々な方法で観客の意表を突いてくる。動きだけではなく、舞台空間全体を使った表現の可能性を探究する金森穰らしさを見せつけた。軽やかな遊び心を、最高に芸術的な完成度で作品に仕上げてしまう金森の力量を再認識させるものだった。

来年に予定されている公演は、今年同様、金森と森のダブルビルの新作公演であり、期待が高まる。

テーマと変革のシリーズ展開

Noismのこれまでの作品を振り返ってみると、「〇〇シリーズ」と銘打っている作

品が多い。これは金森がその時々抱えている問題意識を追求し、さらにその先へその先へと変革する歩みを止めることなくきたからだ。

「見世物小屋」シリーズ：『Nameless Hands 人形の家』(2008年)、『Nameless Poison 黒衣の僧』(2009年)、『Nameless Voice 水の庭、砂の家』(2012年)は、「ときに猥雑さも含む小さな空間で演劇的な表現」に挑戦した。

「劇的舞踊」シリーズ：『ホフマン物語』(2010年)、『カルメン』(2014年)、『ラ・バヤデール 幻の国』(2016年)、『ROMEO & JULIETS』(2018年)では、過去の名作物語をダンスと演劇両面の手法から描き出した。

「近代童話劇」シリーズ：『箱入り娘』(2015年)、『マッチ売りの話』(2017年)は、「童話」に含まれる、楽しくも恐ろしい様々な含意を作品化した。

「実験舞踊」シリーズ：『R.O.O.M.』(2019年)、『春の祭典』(2020年 コロナのため延期)では、実験的な舞台空間(たとえば『R.O.O.M.』では「舞台上に銀色の壁が張られた横長のシンプルな空間を作り、壁や天井などあちこちからダンサーが現れては消える」など)に存在することで身体の可能性を探る作品群だ。

じつはこれらの作品のうち、Noismはさ

いたま芸術で7回(金森穰と妻であり副芸術監督でもある井関佐和子とのプロジェクト『unit-Cyan』(2009年)まで含めると8回)の公演を重ねており、浅からぬ縁で結ばれているのである。

金森穰と森優貴の 新作が登場！

さて来年の新作はどのようなものだろうか。

金森は雅楽演奏団体である伶楽舎との協働で『残影の庭—Traces Garden』を振り付ける。雅楽には初の挑戦となる。

使用曲である雅楽《秋庭歌一具》を作曲した武満徹は実験音楽から映画音楽まで幅広く活躍した作曲家である。金森はこの曲について「放たれた音よりも、その残響に何かが宿るような音楽」と感得したという。それは西洋音楽を学んだ上で雅楽を作曲した武満と、ヨーロッパのダンスカンパニーで活躍して日本でNoismを立ち上げた金森の、魂が響き合っているようだ。しかも出演は金森穰・井関佐和子・山田勇氣と、Noismを牽引する三人がそろそろ賢沢な顔合わせなのである。

もうひとつの森優貴作品はメインカンパニーのNoism1に振り付ける『Das Zimmer (ダス ツィマー)』。これは「部屋」という意味のドイツ語である。人が出入り

し、虚構と真実の狭間にある「部屋」のなかで、人が集まり、何かが作られ、何かが囚われる。部屋そのものが登場人物の一つであり、ダンサー達と対峙することになる。ミステリアスな展開が予想される。

日本で唯一の公共劇場専属のプロフェッショナル・ダンスカンパニー Noismが、さらなる新境地に挑む意欲作である。心して待ちたい。

チケット発売日 一般 12.18(金) メンバーズ 12.16(水)

『Duplex』Noism0 / Noism1

2021年
2.25(木) 19:30・26(金) 19:30
27(土) 15:00 / 18:30・28(日) 15:00
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[演目]
『残影の庭—Traces Garden』

演出振付：金森 穰
音楽：武満 徹《秋庭歌一具》より
※伶楽舎による演奏音源を使用
衣裳：堂本教子
出演：Noism0

『Das Zimmer(ダス ツィマー)』
演出振付：森 優貴
音楽：S. ラフマニノフ、F. ショパン
衣裳：鷲尾華子
出演：Noism1

チケット(税込) 全席自由(整理番号付き)
一般 6,000円 U-25*(枚数制限あり) 3,000円

[主催]公益財団法人新潟市芸術文化振興財団
[共催]公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

Noismがさらなる新境地に挑む 『Duplex』 Noism0 / Noism1

この冬、彩の国さいたま芸術劇場にNoism0とNoism1の新作が登場。雅楽演奏団体「伶楽舎」とともに創作する金森穰演出振付のNoism0最新作、ドイツ・レーゲンスブルク歌劇場のダンスカンパニーで芸術監督を務めた後、昨年より拠点を日本に移した森優貴を再びゲストに迎えたNoism1新作、期待高まる2本立ての上演が決まった。Noismのこれまでの活動を振り返りながら、新作ダブルビル公演について紹介する。

文 ● 乗越たかお (作家・ヤサぐれ舞踊評論家) Norikoshi Takao Photo ● Ryu Endo



残影の庭—Traces Garden



金森 穰
Jo Kanamori

演出振付家・舞踊家。リゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督、Noism芸術監督。17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。NDT2在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家・演出振付家として活躍後、帰国。04年4月、日本初の劇場専属舞踊団Noismを立ち上げる。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞、第60回(2018年度)毎日芸術賞ほか受賞歴多数。
www.jokanamori.com



Das Zimmer



森 優貴
Yuki Mori

演出家・振付家・ダンサー。ハンプルク・バレエ・スクールへ留学後、ニュルンベルグバレエ団、トス・タンツカンパニーに在籍。2005年ハノーファー国際振付コンクールにて観客賞と批評家賞をW受賞。2012年ドイツ・レーゲンスブルグ歌劇場ダンスカンパニーの芸術監督となる。ジャンルを超えた作品を数多く手がけ、ドイツ国内外で高い評価を得る。2019年8月から日本を拠点に活動開始。平成19年度文化庁芸術祭新人賞、平成24年度兵庫県芸術奨励賞、平成29年度神戸市文化奨励賞など受賞歴多数。



2019年 彩の国さいたま芸術劇場上演作品『THE GREAT TAMER』

ディミトリス・パパイオアヌー新作 2021年春公演決定！

人間を彫刻に変える魔術

2004年アテネオリンピックの開閉会式の演出を手がけ、近年ではピナ・バウシュ亡き後のヴッパタール舞踊団から初のゲスト振付家に指名されるなど、世界のアートシーンでその存在感を際立たせているディミトリス・パパイオアヌー。2019年、彩の国さいたま芸術劇場での初来日公演は観客に鮮烈な印象を与えた。パパイオアヌーの作品、そして初来日公演『THE GREAT TAMER』について、彫刻家の目線で読み解く。

文●小谷元彦（美術家・彫刻家） Photo●Julian Mommert

ディミトリス・パパイオアヌーの舞台を観劇しながら、これは〈彫刻〉ではないかと感じていた。彫刻という芸術に長い間携わってきた私の認識は確かだったのだろう。

古典的な意味での彫刻という芸術は、未来永劫に残すための素材を用いた創作物による時間旅行の術であった。ディミトリスが、インタビューで「時間を彫刻したい」と語っていたが、その意味はということ

なのだろうか。そもそも彫刻は時間と深い関係がある。膨大な制作時間がかかり、ある瞬間をポーズし、形に変えて未来へ残す芸術だが、舞台で彫刻するとは何であろうか。素材が石や木のような強固なものでなく、生身の人間となり、始まりと終わりがあるテンポラリーなものになるのだが、それでも私には〈彫刻〉の手応えを感じてしまう。

本人が宗教的フォルムのクリアさに惹

かれると話していた通り、舞台のパフォーマーの身体は、フォルムに無駄がなく、均整がとれたギリシャ彫刻のようでもあり、それを指針としたルネサンスの彫刻のようでもある。ゆっくりとした動きで暗闇に浮かび上がる裸体は、古典絵画の様式美を思わせ、肉体感をより先鋭的に意識させる。調和を目指したルネサンスの芸術は、古典的な彫刻芸術が隆盛を極めた時期に当たる。しかしながらディミトリスは、古典的な調



ディミトリス・パパイオアヌー（演出・振付家）
Dimitris Papaioannou

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を開始。NYでダンスを学び、1986年にエダフォス・ダンス・シアターを設立。以後フィジカル・シアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年開催のアテネ五輪では開閉会式を演出。『PRIMAL MATTER』（2012年初演）、『STILL LIFE』（2014年初演）でヨーロッパ、南米、アジア、オーストラリアで大規模なツアーを行う。また、2018年5月には独ヴッパタール舞踊団の委嘱により、同舞踊団に『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。

この素材選択のクリアさは、彫刻という芸術の重要な側面である素材との格闘にもつながっている。

目を開けて観ながら、永遠の眠りを送り出す葬送儀礼

次は死の儀礼による彫刻化である。仰向けの裸身に白い布をかける、靴に根が張る、宇宙服を脱ぐ、解剖される、地面につき刺さる無数の矢など象徴的なシーンが表すのは死の儀礼であろう。さらにディミトリスは死を超現実主義的に扱っていることで、ミニマルな様相の舞台はカオティックに変化する。いつの間にか人が出現しては、いつの間にか消えていく。オブジェクトも次々と現れては、透明の闇へと消失していく。鑑賞者が目を離したり、違う場所に目を奪われているすきに、小さな混乱がどんどんと脳内に蓄積していく仕掛けを施されている。視認と短期記憶がうまく結びつかないままに。この輻輳式の複雑さ、全体を捉えられない難解さは死が定義できないことの示唆なのだろうか。来たるべき死の直前に分泌される体内の液と似たものが出ているような高揚感を覚える。私にとって『THE GREAT TAMER』とは目を開けて観ながら、永遠の眠りを送り出す葬送儀礼。それは古来の彫刻が宗教芸術として、埋葬など死と深い関わりがあったことを想起させた。

最後にもう一つ彫刻芸術と近い感触がある。操られる人、操る人の関係の逆転と正転が挙げられる。思い出すのは、モビールを発明した彫刻家のアレクサンダー・カルダーである。活動の最初期はトランクに自作の小型彫刻を入れた移動型（モバイ



2021年春、埼玉で上演する新作の様子。
現在アテネでは、新作のリハーサルが行われており今冬初演予定。

チケット発売日調整中

ディミトリス・パパイオアヌー新作

2021年**4.22(木) -25(日)**
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
[演出・振付]ディミトリス・パパイオアヌー
※詳細は決まり次第、財団ホームページ・チラシ等でお知らせします。

ル型) サーカスだった。木や紙などチープな素材と針金で動く彫刻を作りだし、2時間程度の操演のショーを行っていた。そして、最後にたどり着いたのは、人の力でなく、自然の力を利用した空気の流れて自由に動くモビールである。彼の生涯をかけた彫刻観は、操る、操られる、その二項対立が打ち消しあっている。ディミトリスの舞台でも、パフォーマーは自然の力と抵抗を用いて、操演の両極の関係を自在に往復している。

ここまで彫刻とディミトリスの舞台に相似関係があるのだから、私が直感的に彫刻だと感じたことは不思議ではないだろう。「時間を彫刻したい」という意味は、舞台での絶え間ない変化の時間が、生身の肉体を〈彫刻〉の身体へと変えていくことだった。ディミトリス・パパイオアヌーとは、生きた人間を彫像に変える現代の魔術師である。

次作ではどんな魔術を使って彫像にするのだろうか、楽しみに待ちたい。



小谷元彦
Motohiko Odani

1972年、京都府生まれ。覚醒と催眠、人間と非人間など両義的なグレーゾーンを彫刻というメディアを用いて探求している。主な国内での個展に「Tulpa -Here is me」(ANOMALY 2019年)、「Terminal Moment -琳派400年記念事業」(京都芸術センター、2014年)、「幽体の知覚」(森美術館、静岡県立美術館、高松市美術館、熊本市現代美術館、2009年～2010年)など。2018年まで東京藝術大学先端芸術表現科准教授をつとめ、現在は東京藝術大学彫刻科准教授。
Photo by Takumi Nemoto Courtesy of ANOMALY

泣く子も黙る
豪華メンバー！

2003年に名指揮者クラウディオ・アバドによって創設されたルツェルン祝祭管弦楽団は、マーラー・チェンバー・オーケストラを母体にしつつも、トップオーケストラの首席奏者や、普段はオーケストラに所属しない名演奏家たちがアバドのもとに集った夢のスーパーオーケストラ。来日公演でも奇跡的な名演を何度も披露した。アバドの死後はリッカルド・シャイーがその志を継ぎ、オーケストラは存続しているが、創設から現在までトランペットの首席奏者を務めるのがラインホルト・フリードリヒである。どんな音域でも柔らかくふくよかな音色を失わない、紛うことなき当代随一の名手だ。



Reinhold Friedrich
ラインホルト・フリードリヒ
(トランペット)



Jeroen Berwaerts
イエルー・ベルワルツ
(トランペット)



Lasse Mauritzen
ラッセ・マウリッツェン
(ホルン)

ユナイテッド・ユーロ ブラス・クインテット 究極の金管アンサンブル、埼玉に降臨！

スーパー・プレイヤーが勢ぞろいしたスペシャルな金管五重奏団、ユナイテッド・ユーロ ブラス・クインテット。メンバーは、トランペットの巨匠ラインホルト・フリードリヒ、そして彼が選んだ各地の名門オーケストラの首席奏者たち。ブラス・ファンはもちろん、音楽を愛する人ならば必聴のクインテットの魅力、そしてバラエティに富んだプログラムをご紹介します。

文 ● 小室敬幸 (音楽ライター)

彼はルツェルン祝祭管弦楽団のことを「オーケストラ」と呼びたくありません。言うなれば「室内楽奏者のグループ」です」と述べているように、たとえマーラーのような巨大な編成となっても、室内楽のような感覚で全員がアンサンブルすることを理想としている。そんな彼が、実際の室内楽ではどんなアンサンブルを聴かせてくれるのか？ 3月6日に彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホールで公演をおこなう「ユナイテッド・ユーロ ブラス・クインテット」で、その全貌が明らかになる。

まずはメンバーが実に豪華！ 第2トランペットはフリードリヒの弟子で、元ハンブルク北ドイツ放送交響楽団の首席奏者であるイエルー・ベルワルツ。バロック

から現代音楽、更にはジャズまで吹きこなす才人で、ヨーロッパで最も高い評価を受ける日本人作曲家・細川俊夫のトランペット協奏曲を初演するなど日本とも縁がある音楽家だ。

ホルンは、デンマーク国立交響楽団首席奏者であるラッセ・マウリッツェン。BBC響やフィルハーモニア管でもゲスト首席として客演したり、ファビオ・ルイージ指揮でR. シュトラウスの協奏曲を演奏したりと、活躍の場を増やしている注目株だ。現役の奏者のなかで最もなめらかで甘い音色をもつホルン奏者といっても過言ではないかもしれない。

トロンボーンは元ロンドン響の首席で、英国人として初めてウィーン・フィルに入団したイアン・バウスフィールド。彼は来日経験も多く、日本のファンにもおなじみだ。しなやかな音色と力強さを両立した世

界最高峰のトロンボーン奏者である。

そしてチューバは、マウリッツェンと同じくデンマーク国立交響楽団の首席奏者を務めるトーマス・ロイスランド。芯をしかりと持ちつつも丸みのある音色が印象的で、ソリストとしてもアンドリュ・マンゼ指揮でヴォーン＝ウィリアムズの協奏曲を演奏している。また、彼もアバド指揮のルツェルン祝祭管での演奏経験があるのだという。

知名度やオーケストラのネームバリューではなく、フリードリヒが自分の音楽性と相性の良い、本当に実力のある演奏家だけをチョイスした理想の金管五重奏となっていることが、その人選からも明らかだ。金管アンサンブルとはいえ、柔らかく温かな音色ですべてを包み込んでくれるような演奏を披露してくれるに違いない。

バロックからビートルズまで 金管楽器を味わい尽くすプログラム

そして、演奏プログラムも時代とスタイルに幅があって非常にユニークだ。まずはリーダーであるフリードリヒがバロック時代のビッコロ・トランペットの演奏を

United Euro Brass Quintet

ユナイテッド・ユーロ ブラス・クインテット

ルツェルン祝祭管弦楽団の首席奏者として全世界で活躍する名トランペット奏者ラインホルト・フリードリヒの呼びかけにより結成された金管五重奏団。メンバーは、ラインホルト・フリードリヒをはじめ、ソロトランペット奏者のイエルー・ベルワルツ、トロンボーンには、ロンドン交響楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を務めたイアン・バウスフィールド、デンマーク国立交響楽団からホルンのラッセ・マウリッツェン、チューバのトーマス・ロイスランドで構成され、バロックからロックまで幅広いレパートリーで活動している。

Member

トランペット ラインホルト・フリードリヒ (ルツェルン祝祭管弦楽団首席奏者)
トランペット イエルー・ベルワルツ (元ハンブルク北ドイツ放送交響楽団首席奏者)
ホルン ラッセ・マウリッツェン (デンマーク国立交響楽団首席奏者)
トロンボーン イアン・バウスフィールド (元ロンドン交響楽団 / ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席奏者)
チューバ トーマス・ロイスランド (デンマーク国立交響楽団首席奏者)

得意とすることもあり、フランスのジャン＝フィリップ・ラモー (1683～1764)、ドイツのゲオルク・フィリップ・テレマン (1681～1767)、イタリアのアントニオ・ヴィヴァルディ (1678～1741) と国際色豊かなバロック音楽を聴かせてくれる。この時代はまだ金管楽器が発展途上で、そもそもチューバが開発される前だったため、金管五重奏という編成は存在していないのだが、金管楽器のアンサンブル自体はバロック時代に存在しているので相性も抜群だ。

もちろん、金管五重奏のために書き下ろされた20世紀のオリジナル作品として、ロシアのヴィクトル・エヴァルド (1860～1935)、イギリスのマルコム・アーノルド (1921～2006)、スウェーデンのア



Ian Bousfield
イアン・バウスフィールド
(トロンボーン)



Thomas Røisland
トーマス・ロイスランド
(チューバ)

チケット発売日調整中 ※決まり次第お知らせします

ユナイテッド・ユーロ ブラス・クインテット

2021年3.6(土) 15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] ラインホルト・フリードリヒ (トランペット)、イエルー・ベルワルツ (トランペット)、ラッセ・マウリッツェン (ホルン)、イアン・バウスフィールド (トロンボーン)、トーマス・ロイスランド (チューバ)
[曲目] J. P. ラモー：歌劇《ダルダニウス》組曲より
V. エヴァルド：金管五重奏曲第3番 変ニ長調 作品7
G. P. テレマン：トリオ・ソナタ 短調 TWV42:a6
A. ヴィヴァルディ：ラ・フォリア
A. ヒルボリ：金管五重奏曲
M. アーノルド：金管五重奏曲第1番
J. レノン & P. マッカーートニー：ビートルズ・メドレー

チケット(税込) 全席指定 5,000円 U-25*2,500円 メンバーズ 4,500円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

Ivo Pogorelich

イーヴォ・ポゴレリッチ interview

21年ぶりの埼玉公演 鬼才×ショパンの深淵な音楽体験

鬼才イーヴォ・ポゴレリッチが21年ぶりに埼玉にやってくる！

1980年ショパン国際コンクールで本選前に落選し、それに抗議した審査員マルタ・アルゲリッチが「だって彼は天才よ!」という言葉を残して帰国してしまった“事件”から40年。型破りな天才は円熟を深め、独自の感性と視点で作品の本質を探究し続けている。2021年3月、オール・ショパン・プログラムでどんな世界観を聴かせてくれるのだろう。

取材・文 ● 飯田有抄 (音楽ライター) Photo ● 田中亜紀

初来日から40年 日本の聴衆の変化と共に

過去10年もの間、2年と間を置かずに来日し、リサイタルを重ねているイーヴォ・ポゴレリッチ。彼のリサイタルには、昨今では20代や30代の姿も目立つ。日本の聴衆に対するイメージに変化は感じているのだろうか。

「私は日本が大好きで、とても礼儀正しい人々も大好きです。お辞儀ひとつとっても、エレガントなコミュニケーションですよ。ただ、そうした儀礼的な所作というのは、少しずつ減ってきているような気がします。ひとつには、欧米からの影響もあるかもしれませんが、もうひとつには、慌ただしい現代社会のあり方の影響もあるでしょう。あまりゆっくりと時間をかけた所作を行う余裕はなくなってきたのかもしれない。

一方で、最近ではお客様がよりリラックスした雰囲気ですコンサートにいらしてくださっていることが伝わります。私が初来日したのはもう40年も前ですが、その頃

は生真面目な大人たちが多くて、私自身がホールでの最年少ではないかと思いました(笑)。客席はどこかお硬い雰囲気が漂っていたと記憶しています。

若い聴衆も増えてますね。若者たちは情報収集がとても上手で、勉強熱心。国際的なセンスも持っている。社会に対して自分自身を適合させるのがとてもうまい。だからこそ、彼らはクラシック音楽のコンサートに行くことにも、あまり抵抗がないのかも。若者たちは、自分が信頼を寄せ、リスペクトするアーティストを自分で選んでいます。それは私のような演奏家にとって満足感を与えてくれることですし、励みにもなります」

ショパンからできる 発見のプログラム

きたる2021年3月のリサイタルは、オール・ショパンのプログラムを披露する。2020年のコンサートではJ. S. バッハ、ベートーヴェン、ショパン、ラヴェルと4名の作曲家で構成したのとは少し対照的だ。どのような考えのもとに、プログラム

を構成しているのだろうか。「コンサートのプログラムは、さまざまなパラメーターから決めています。作品の形式で言えば、ソナタなのか、組曲なのか、連作ものなのか、ひとつの大曲なのか。また、それぞれの様式や歴史的な関係性も考えます。全体の長さのこともありますし、それぞれの作品を前半におくべきか、後半におくべきか、という問題もあります。ひとつのシンプルな方法としては時代順に並べるというやり方があります。2020年は、200年にわたる4人の作曲家の作品を取り上げ、古いものから新しいものへと並べました。音楽には、時代から時代へと受け継がれるものがあるからです。

一方、来年のショパン・プログラムは、ショパンという1人の作曲家が成し遂げた、多様な構成をもった作品を並べます。ショパンは形式も規模も、実にヴァリエティに富んだ作品を残していますし、モチーフやキャラクターの多様さもある。一晩のリサイタルプログラムを、たった1人の作曲家の作品だけで組むというのは、どの作曲家でもできるというものではありません。

イーヴォ・ポゴレリッチ (ピアノ) Ivo Pogorelich

1980年のショパン国際コンクールで、アルゲリッチの「だって彼は天才よ!」という言葉によって一躍脚光を呼び、世界的に名を知られる。1981年のカーネギーホールでのデビュー以来、世界中で活躍、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、ロンドン響、パリ管、シカゴ響、ボストン響など世界有数のオーケストラと共演。1982年、ドイツ・グラモフォンからレコードデビュー、10数点のCDをリリース。2016年、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第22、24番をIdagioから配信。2019年に21年ぶりのCDがソニー・クラシカルからリリースされて話題となる。

せん。ショパンであれば、お客様にとっても演奏家である私にとっても、発見のある魅力的なプログラムが構成できるのです。

今回は、このエレガントな作曲家の世界へとみなさんをお連れするために、まずは3曲からなる小さなマズルカで開始し、それに続けてソナタ第3番を取り上げます。後半は幻想曲、子守唄、幻想ボロネーズといった、単一楽章的な3つの作品を選びました」

埼玉の皆様に愛を贈ります！

昨年2019年には、21年ぶりとなるア

ルバムをリリースした。録音を残すということは、ポゴレリッチにとってどのような意味を持つのだろうか。

「このアルバムは全曲を一気に収録したものではなく、ラフマニノフのソナタ第2番は2年前、ベートーヴェンのソナタ第22・24番は4年前に録音したものです。選曲も録音の時期も、私なりの考えがあってそのようにしています。とにかく美しい作品として録音を残したいので、準備を重ね、作品と向き合いながら、私自身が新たに得られたものを皆様に聴いていただきたい、というスタンスで作りました。録音とは、

私自身の音楽の記録でもあるけれど、私の長い努力の結果を聴いていただくものでもあります」

2021年3月の公演は、実に約21年ぶりの埼玉公演である。

「日本は島国だけれど、とても広い国ですから、全国隅々まで、独自の文化や食べ物がありますよね。久しぶりに埼玉を訪れることができるのは、とても幸せで楽しみです。埼玉の皆様に愛を贈りたいと思います！」

チケット発売日調整中 ※決まり次第お知らせします

イーヴォ・ポゴレリッチ ピアノ・リサイタル

2021年**3.7(日)17:00** 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
[曲目]ショパン：3つのマズルカ 作品59
ピアノ・ソナタ第3番 短調 作品58
幻想曲 ヘ短調 作品49
子守歌 変ニ長調 作品57
幻想ボロネーズ 変イ長調 作品61
チケット(税込) 一般 正面席 10,000円 メンバーズ 正面席9,000円
バルコニー席 8,000円/U-25*(バルコニー席対象)3,000円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

REPORT

レポート

彩の国シェイクスピア講座 番外編 『リア王』勉強会&上映会が 開催されました！

全37作品の上演を目指す「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、第35弾『ヘンリー八世』は4公演が中止、第36弾『ジョン王』は全公演中止となってしまった。こうした厳しい状況の中、生の舞台とはまた違う切り口で、シェイクスピアの世界を楽しめる企画を……という思いから、「彩の国シェイクスピア講座」番外編として、シェイクスピア四大悲劇の一つ『リア王』の勉強会&上映会が開催された。

勉強会が開催されたのは9月13日。講師には、シリーズの翻訳を手がける松岡和子氏、日本シェイクスピア協会会長の河合祥一郎氏を迎え、対談形式で『リア王』の魅力をつぶり語った。松岡氏は『リア王』で使用される「KNOW」という単語の多さに注目し、「人（および自分）を知る芝居と言える」と分析。河合氏は原語での朗読を交えながら、シェイクスピアのリズムある台詞の魅力を伝えた。

9月下旬には彩の国シェイクスピア・シリーズ第19弾『リア王』（2008年）の上映会も開催され、参加者たちは、同作を観る楽しみ、理解の深さが倍増したに違いない。2月には再び、『ジュリアス・シーザー』勉強会&上映会を開催予定。シリーズ再開への期待も高まる企画となった。



講師の松岡和子と河合祥一郎（左）



彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾『ジュリアス・シーザー』（2014年） Photo©引地信彦

チケット発売日 一般 2021年1.24(日) メンバーズ 2021年1.23(土)

彩の国シェイクスピア講座 番外編 『ジュリアス・シーザー』勉強会

2021年2.23(火・祝) 14:00～15:40 開場は開講の20分前

彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

〔講師〕松岡和子、河合祥一郎

チケット(税込) 全席指定 一般・メンバーズ 1,200円／U-25* 600円

※勉強会後半(14:55～15:40)のみ、財団公式YouTubeチャンネルにて無料ライブ配信を行います[2021年3月1日(月) 14:00までアーカイブ配信]。

チケット発売日 一般 2021年1.24(日) メンバーズ 2021年1.23(土)

彩の国シェイクスピア・シリーズ第29弾 『ジュリアス・シーザー』上映会

〔協力〕ニナガワカンパニー、ホリプロ

〔演出〕蜷川幸雄 〔作〕W. シェイクスピア 〔翻訳〕松岡和子

〔出演〕阿部寛、藤原竜也、横田栄司、吉田鋼太郎 ほか

2021年2.27(土) 13:00・28(日) 13:00

開場は開映の20分前／上映時間185分、途中10分間の休憩あり

彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

チケット(税込) 全席指定 一般・メンバーズ 前売1,800円 当日2,000円
U-25* 前売1,300円 当日1,500円

*U-25チケットはご来場時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※当日券は残席がある場合のみ販売いたします。

REVIEW

レビュー

RAKUGO

彩の国さいたま寄席 四季彩亭

令和元年度 彩の国落語大賞受賞者の会 三遊亭鬼丸

10.31(土) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



Photo©加藤英弘

秋の四季彩亭は、令和元年度彩の国落語大賞を受賞、埼玉のラジオ放送局FM NACK5の人気番組「GOGOMONZ」パーソナリティーでも知られる三遊亭鬼丸の会。夏に開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で延期され、観客の「やっと！」の喜びにあふれた会は、早々にチケット完売だったとか。『茶の湯』は、知ったかぶりの知識で『茶道』にのめり込む御隠居に憎めない愛嬌が。『らくだ』は、気の弱い肩屋が酒に酔って強気に変化していく様子が絶品。ゲストには江戸曲独楽の三増紋之助が登場し、お祝いの会を賑やかに盛り上げた。林家けい木はテンボ良い『天狗裁き』。開口一番は林家木はちによる『寿限無』。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.40

川口成彦 フォルテピアノ・リサイタル

11.3(火・祝) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



Photo©横田敦史

2018年ショパン国際ピアノコンクール第2位に入賞し、注目を集めている川口成彦によるシリーズ初のフォルテピアノ・リサイタル。アルカンとショパン、同時代に活躍した2人の音楽性を堪能した。前半は、川口が選んだ、アルカンの「不気味さ・肌寒さ」という世界観を表す15曲。1曲目の〈波打ち際の狂女の歌〉では切り立つ岩壁でオルゴールが寂しく鳴るような異様な音風景が浮かんでくる。その後の曲もアルカンの音楽の不思議な世界が1843年製ブレイエルの響きでより鮮明に描き出されていった。後半はショパン〈24の前奏曲〉。「人間の感情の音図鑑のよう」と川口が解釈するように、普段は隠されている感情を1曲ごとに露わにしていこうという演奏で24曲のドラマを描いた。アンコールはショパンの弟子で夭折したフィルチ〈舟歌〉の微笑ましい音楽で締めくくった。

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館

※新型コロナウイルス感染症の影響により開催日・発売日に変更がございます。また、今後も変更の可能性がございます。ご来場の際は必ず財団ホームページまたはお電話等で開催状況をご確認の上、お越しください。

	PLAY	DANCE	MUSIC	CINEMA	
12月					
1 火					1 火
2 水		休館日(埼玉会館)			2 水
3 木					3 木
4 金					4 金
5 土					5 土
6 日					6 日
7 月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)	7 埼玉会館ランチャタイム・コンサート第45回 NHK交響楽団 ホルン・アンサンブル 埼玉会館 大ホール 12:10(終了予定13:00) 詳細はP.21		7 月
8 火					8 火
9 水					9 水
10 木					10 木
11 金					11 金
12 土					12 土
13 日					13 日
14 月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			14 月
15 火		休館日(埼玉会館)			15 火
16 水		休館日(埼玉会館)			16 水
17 木		フランソワ・シェニヨール&ニノ・レネ 『不確かなロマンス —もう一人のオーランド—』 大ホール 19:00 詳細はP.21	19 光の庭プロムナード・コンサート 第119回トワイライト・スペシャル 心に灯す、クリスマスの暖かいメロディ 情報プラザ 17:00 キャンドル・アート・ナイトとの共同開催で、光の 庭にキャンドルが灯る幻想的な雰囲気の中、オル ガンとバロック・ヴァイオリンとのアンサンブルを お楽しみいただきます。 【出演】堀切麻里子(オルガン)、 阿部まりこ(バロック・ヴァイオリン) 【曲目】シューベルト：アヴェ・マリア クリスマス・メドレー ほか ※入場無料 ※開演時間が通常と異なりますのでご注意ください。		17 木
18 金					18 金
19 土					19 土
20 日	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)				20 日
21 月					21 月
22 火					22 火
23 水					23 水
24 木					24 木
25 金	25 さいたまネクスト・シアター リーディング公演 『作者を探す六人の 登場人物』 大ホール 詳細はP.4-5	18:30			25 金
26 土		13:30			26 土
27 日		13:30			27 日
28 月					28 月
29 火		休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			29 火
30 水		休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			30 水
31 木		休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			31 木
1月					
1 金		休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			1 金
2 土		休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			2 土
3 日		休館日(彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館)			3 日
4 月				『レディ・マエストロ』 埼玉会館 小ホール 10:30 / 14:30 / 18:30 詳細はP.21	4 月
5 火					5 火
6 水					6 水
7 木					7 木
8 金					8 金
9 土					9 土
10 日					10 日
11 月・祝					11 月・祝
12 火					12 火
13 水					13 水
14 木					14 木
15 金					15 金
16 土	16 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 林家彦いちと新春若手落語会 小ホール 14:00 詳細はP.8-9		13 イレブン・クラシックス Vol.2 波多野睦美&高橋悠治 音楽ホール 11:00(終了予定12:40) 詳細はP.21	13 『リンドグレーン』 映像ホール 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 詳細はP.21	16 土
17 日		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			17 日
18 月					18 月
19 火					19 火
20 水		休館日(埼玉会館)			20 水
21 木					21 木
22 金					22 金
23 土					23 土
24 日					24 日
25 月		24 パーキンソン病患者のための ダンス・プログラム (患者さん向け) オンライン・クラス 15:30 ~ 16:10 ※要事前申込み。詳細は財団ホームページ をご覧ください。	23 光の庭プロムナード・コンサート 第120回 情報プラザ 14:00 【出演】洪澤久美(オルガン)、 藤岡泰子(フルート) 【曲目】調整中 ※入場無料 【要事前申込み】12/22(火)10:00より受付開始 財団ホームページより事前申込みをお願いします (先着120名様)。 また、ご来場の際は、必ずお電話または財団ホーム ページ等で開催状況をご確認の上、お越しください。		25 月
26 火					26 火
27 水					27 水
28 木					28 木
29 金					29 金
30 土					30 土
31 日					31 日
2月					
1 月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			1 月
2 火					2 火
3 水					3 水
4 木					4 木
5 金					5 金
6 土					6 土
7 日					7 日
8 月					8 月
9 火					9 火
10 水					10 水
11 木・祝	11 2.11(木・祝)~21(日) さいたまゴールド・シアター 第8回公演 『聖地2030』 小ホール 詳細はP.6-7	17:00	埼玉会館ランチャタイム・コンサート第46回 野尻小矢佳(マリンバ・打楽器)& 中川賢一(ピアノ) 埼玉会館 大ホール 12:10(終了予定13:00) 詳細はP.21	『僕たちは希望という名の列車に乗った』 映像ホール 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 10:30 / 14:30 詳細はP.21	11 木・祝
12 金		18:30	大塚直哉レクチャー・コンサート オルガンとチェンバロで聴き比べる パッサの“平均律” Vol.5 フーガの身体性 音楽ホール 14:00 詳細はP.21		12 金
13 土		13:30			13 土
14 日		13:30			14 日
15 月		休演日			15 月

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 埼玉会館
※U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。 お子様から楽しんでいただける公演です。

※新型コロナウイルス感染症の影響により開催日・発売日に変更がございます。また、今後も変更の可能性がございます。ご来場の際は必ず財団ホームページまたはお電話等で開催状況をご確認の上、お越しください。

※イベント取寄率制限緩和に伴い、感染予防対策を徹底した上で、通常配席にて販売します(特記公演除く)。

販売中

さいたまネクスト・シアター リーディング公演
『作者を探す六人の登場人物』
詳細はP.4-5

販売中

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
林家彦いちと新春若手落語会
※座席の間隔を空けるため、販売席数を通常より縮小いたします。
詳細はP.8-9

発売日 一般 12.20(日) メンバーズ 12.19(土)

さいたまゴールド・シアター第8回公演
『聖地2030』
詳細はP.6-7

販売中

埼玉会館ランチャタイム・コンサート第45回
NHK交響楽団ホルン・アンサンブル
12.7(月)12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール

【出演】今井仁志、福川伸朗、勝俣 泰、石山直城、
木川博史、野見山和子(ホルン)
【曲目】J. S. バッハ：トッカータとフーガ 二短調 BWV 565
ヘンデル：《水上の音楽》より ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円
※開場は開演の1時間前

販売中

イレブン・クラシックス Vol.2
波多野睦美&高橋悠治

2021年 1.13(水)11:00(終了予定12:40) 音楽ホール
【出演】波多野睦美(メンソブラノ)、高橋悠治(ピアノ) /
林田直樹(ナビゲート)
【曲目】
シューベルト：歌曲集《冬の旅》より《春の夢》(詩：W. ミュラー)
シルヴィアって？(詩：W. シェイクスピア)
高橋悠治：民衆に訴える(詩：F. シューベルト) ほか
〈音楽がもっと面白くなるトーク・タイムあり〉
チケット(税込) 全席指定 2,000円
※年末年始期間のメンバーズチケットご購入についてはP.23をご確認ください。

販売中

大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べる
バッハの“平均律” Vol.5 フーガの身体性

2021年 2.14(日)14:00 音楽ホール
【出演】大塚直哉(ポジティブ・オルガン、チェンバロ、お話)
ゲスト：小尻健太(ダンス)
【曲目】J. S. バッハ：
《平均律クラヴィア曲集第2巻》より 第7番~第12番
チケット(税込) 全席指定 2,200円

発売日 一般 12.13(日) メンバーズ 12.12(土)

埼玉会館ランチャタイム・コンサート第46回
野尻小矢佳(マリンバ・打楽器)&中川賢一(ピアノ)

2021年 2.9(火)12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール

【出演】野尻小矢佳(マリンバ・打楽器)、中川賢一(ピアノ)
【曲目】バッハ：カノン
ササ：マトルズ・ダンス ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

次頁へ続く

MUSIC

発売日 一般 12.19(土) メンバース 12.12(土)

埼玉会館特別公演
NHK交響楽団
尾高忠明(指揮)
小山実稚恵(ピアノ) 村治佳織(ギター)
2021年 3.11(木) 16:00 埼玉会館 大ホール
[曲目] エルガー：《エニグマ変奏曲》より〈ニムロッド〉
ロドリゴ：アランフェス協奏曲
ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲
ストラヴィンスキー：バレエ組曲《火の鳥》(1919年版)
一般 S席 7,000円 A席 6,000円 B席 5,000円
U-25* (B席対象) 2,500円
メンバース S席 6,500円 A席 5,500円 B席 4,500円

追加販売 一般・メンバース 2021年 1.16(土)

ピアノ・エトワール・シリーズVol.139
藤田真央 ピアノ・リサイタル [振替公演]
2021年 2.26(金) 19:00 音楽ホール
[曲目]
モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第6番 二長調 KV 284「デュルニツ」
モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第14番 ハ短調 KV 457
ブラームス：2つのラプソディー 作品79
R.シュトラウス：ピアノ・ソナタ ロ短調 作品5
チケット(税込)
一般 正面席 3,600円 メンバース 正面席 3,300円
※当初発表したプログラムが変更となりました。予めご了承ください。

発売日 一般 2021年 1.17(日) メンバース 2021年 1.16(土)

埼玉会館ランチャタイム・コンサート第47回
春休みスペシャル
東京交響楽団メンバーによる《動物の謝肉祭》
2021年 3.30(火) 12:10(終了予定13:00)
埼玉会館 大ホール
[出演] 東京交響楽団室内合奏団、酒井有彩、片山 柗
(ピアノ)、浦和児童合唱団(朗読)
[曲目] サン＝サーンス：組曲《動物の謝肉祭》ほか
チケット(税込) 全席指定 1,000円

発売日 一般 2021年 1.23(土) メンバース 2021年 1.16(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.9
河村尚子 ピアノ・リサイタル
2021年 4.17(土) 15:00 音楽ホール
[曲目]
シューベルト：ピアノ・ソナタ第18番 ト長調 D 894「幻想」
ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66
舟歌 嬰ハ長調 作品60 ほか
チケット(税込)
一般 正面席 4,000円 メンバース 正面席 3,600円
バルコニー席 3,000円 U-25* (バルコニー席対象) 1,500円
※セット券の販売はございません。

チケット発売日調整中 ※決まり次第お知らせします

ユナイテッド・ユーロ プラス・クインテット
詳細はP.14-15

チケット発売日調整中 ※決まり次第お知らせします

イーヴォ・ボゴレリッチ ピアノ・リサイタル
詳細はP.16-17

EVENT

発売日 一般 2021年 1.24(日) メンバース 2021年 1.23(土)

彩の国シェイクスピア講座 番外編
『ジュリアス・シーザー』勉強会&上映会
詳細はP.18

年末年始の休業について

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館の施設利用及びチケット販売について下記の通り休業いたします。

施設のスケジュール

◎彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館
12月28日(月) 通常営業
12月29日(火)～1月3日(日) 休館
1月4日(月) 通常営業

チケット販売

◎彩の国さいたま芸術劇場(窓口販売・電話受付)
埼玉会館(窓口受付)
12月28日(月) 10:00～19:00
12月29日(火)～1月3日(日) 休館のため休業
1月4日(月) 10:00～19:00
◎インターネット販売【SAF オンラインチケット】
24時間ご利用になれます

※「イレブン・クラシックス Vol.2 波多野睦美&高橋悠治(1月13日開催)」、[彩の国さいたま客席 四季彩季 林家彦いちと新春若手落語会(1月16日開催)]の2公演につきまして12月28日(月) 16:00以降のメンバーズお申込み分は、公演当日会場でのお渡しとなります(開演1時間前より受付開始)。上記公演以外のメンバーズお申し込み分は、1月7日(木)の発送となります。
※メンバーズ事務局(TEL:048-858-5507)につきましても、12月29日(火)～1月3日(日)は休業といたしますので、1月4日(月) 10:00以降にお問合わせください。

彩の国さいたま芸術劇場
改修工事のお知らせ

下記のとおり、当劇場において改修工事を行うこととなりました。ご迷惑をお掛けしますが、ご理解・ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

[工事期間]
2021年3月26日まで(8:30～17:30)
※土曜日も工事を行います。また、日曜日・祝日も工事を行う場合がございます。
[工事内容]
屋上防水工事、空調改修、劇場内機器更新 ほか
[劇場利用における注意事項]
工事期間中、作業区域以外のホール、稽古場、練習室はご利用いただけます。駐車場の一部が利用できなくなりますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。また、施工状況により騒音等発生することがあります。
[お問合わせ]
彩の国さいたま芸術劇場 劇場部技術計画課 施設担当
TEL.048-858-5508(休館日を除く10:00-17:00)

【謹告】

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.41
ジャン・チャクムル ピアノ・リサイタル
公演中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止にかかる諸般の都合により、2021年1月30日(土) 15:00開催「ピアノ・エトワール・シリーズVol.41 ジャン・チャクムル ピアノ・リサイタル」公演をやむなく中止することいたしました。チケットの払戻し詳細は財団ホームページをご確認ください。
公演を楽しみにお待ちいただいていたお客様には、大変なご迷惑をお掛けして誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

大切なお願い

新型コロナウイルス感染拡大防止について

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、皆様に安心して公演をお楽しみいただけるよう対策を徹底し公演を開催いたします。ご来場前に必ず劇場HPの【財団主催公演 新型コロナウイルス感染症対策とご来場の皆様へのお願い】で最新情報をご確認ください。皆様のご協力をお願いいたします。



※新型コロナウイルス感染症の影響により変更の可能性がございます。最新の情報は財団ホームページをご確認ください。



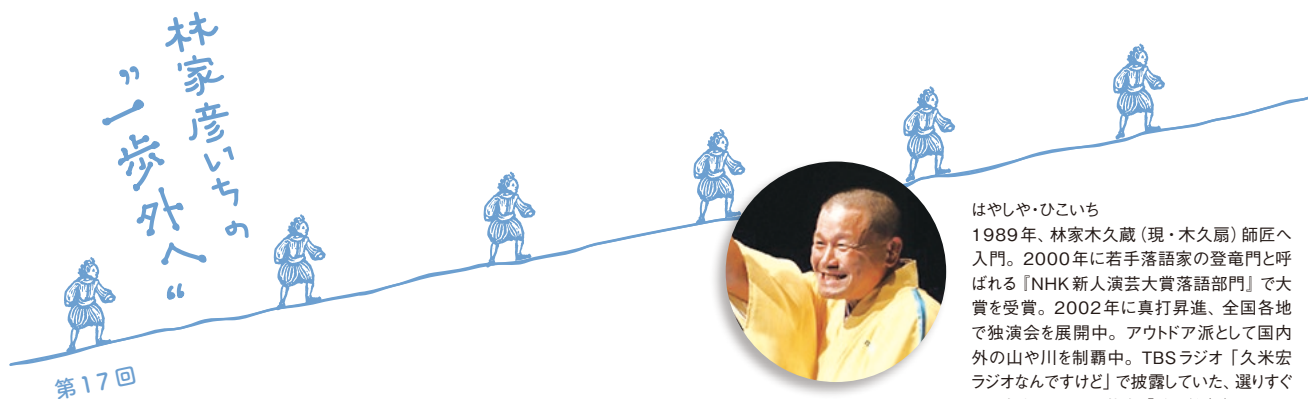
www.saf.or.jp

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2020.11.15現在／一部未掲載)

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／埼玉りそな銀行／(株)パシフィックアートセンター
(株)アサヒコミュニケーションズ／FM NACK5／(株)タムロン／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)／東芝ライテック(株)／埼玉トヨタ自動車(株)
武蔵野銀行／ロイヤルバインズホテル浦和／アルピーノ村／国際照明(株)／埼玉スバル／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむら／不動開発(株)
ビストロ やま／埼玉縣信用金庫／(株)栗原運輸／彩の国SPグループ／(有)ブラネッツ／(株)デサン／セントラル自動車技研(株)／丸美屋食品工業(株)
ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉トヨペット(株)／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)埼玉交通／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)
旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドシステム(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房／(株)つばめタクシー／(株)サンワックス／(株)総合舞台
(一財)さいたま住宅検査センター／(株)国大グループホールディングス／TAプラットフォーム(株)／イープラス／(医)樺会 林整形外科／埼玉県整形外科医会
(医)山粋会 山崎整形外科／サンケイリビング新聞社／(株)三和広告社／(株)松尾楽器商会／日本大学芸術学部／(株)ホンダカーズ埼玉／(有)杉田電機
丸茂電機(株)／太平ビルサービス(株)さいたま支店／(株)片岡食品／(株)協栄／(株)ヨコハマタイヤジャパン／NTT東日本 埼玉事業部／(株)平和自動車
光陽オリエントジャパン(株)／さくら Music Office／クワバラ・パンぷキン／東和アークス(株)／テレビ埼玉／日本ビストンリング(株)／金井大道具(株)
国立大学法人 埼玉大学／(株)七越製菓／ビーンズ与野本町／(株)コマーム／(株)原一探偵事務所／川口信用金庫／青木信用金庫／(株)和幸楽器／大栄不動産(株)
相川宗一／(株)ハイデイ日高／浦和大学／三井隆司／大和証券(株)／ウォータースタンド(株)／(株)ワイイーシーソリューションズ／白神久吉／むさし証券(株)
三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)／ポートピア岡部・栗橋／中央税務会計事務所／トヨタカローラ埼玉(株)／放送大学埼玉学習センター
GARO DAYHAPPY／(株)有村紙工／(医)たかだクリニック／SMBC日興証券(株)／(株)アステック／(株)ジェイコム埼玉・東日本／(株)ヤナセ
トヨタカローラ新埼玉(株)／浦和興産(株)／(株)村松フルート製作所／東武商事(株)／東和銀行／(株)喜多山製菓／埼玉ダイハツ販売(株)
(医)大宮シティクリニック／埼玉田中電気(株)／(有)細井技研／(株)エリーサーK／小川秀樹

お問合わせ (公財) 埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



はやしや・ひこいち

1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK 新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。TBSラジオ「久米宏ラジオなんですけど」で披露していた、選りすぐりの小噺をまとめた著書「瞠目笑」（パイ インターナショナル）が発売中。彩の国さいたま寄席 四季彩亭に1月出演決定！

📞 P.8-9にインタビュー掲載！

森の中から オンライン落語

文と写真 ● 林家彦いち

「オンラインで落語お願いします」や「ラジオはリモートで」の依頼が普通にある日常。

アウトドア好きの私は、時々、アウトドア関連のお仕事をやらせてもらっている。過日、アウトドア雑誌「BE-PAL」（小学館）から読者イベント出演の依頼があった。よく知る担当さんから「今年はこういうご時世なのでオンラインでお願いいたします」。もちろん二つ返事で引き受けた。もお20年来の付き合いのある雑誌でお世話にもなっている。真打昇進の際の後幕は「BE-PAL」様からいただいたので足を向けて寝られないのである。

アウトドアと落語。広大な場所で一席やったこともあった。気持ちよい風が通りすぎる青空の下では、下品な噺も爽やかになるとか。しかし現実には青空の下では、揺れる木や、鳥の声や姿に、お客さんが気を取られてあまり落語に向かない。落語は密室芸だと、アウトドアでやって気がついた。昼より情報の少ない夜がいい。野外、明かりで照らされた緋毛氈（ひもうせん。高座の下に敷くフェルト布）と座布団。薄暗い中の噺家は実にフォトジェニックだ。ランタンの光で一杯やりながら聴く「夜噺」はオツである。

ただこれも落とし穴がある。明かりに向かって虫が飛んでくる。時に目や口の中へ。ある時はカブト虫が顔面に体当たりして落語の最中に「痛い！」と叫んだこともある。これら全部を含め、私自身が「嫌いじゃない」から、困ったものだ。

でも今年はオンライン。「日時と時間、教えてください、準備しときますね」と言ったところ……「彦いちさんは山梨の森の



中から喋って欲しいんです」「えっ！」。リモートとは家からやるものだと思っていたが、違うらしい。聞くと、山梨のキャンプ場に特設会場を作り、限られたスタッフだけで、料理などのブースをベースキャンプとして全国各地と繋ぎながらの大掛かりな生配信だとか。

当日、特設高座の脇には焚き火台にて火が燃えている。かっこいい。薪能のようだ。目の前のカメラ脇に少数精鋭のスタッフさんがニコニコ。お客さんの反応は直接分らないが、実にやり易かった。ただ風向きが途中で変わり、焚き火の煙がアタシを包んでいった。モニターには霞んでゆくアタシの姿が。新しい演出のようでもあるぞ。思わずニヤリ。

顔を上げると抜けのいい空が気持ち良かった。このところ空を眺めてなかったことを反省した。



YouTube

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 公式チャンネル
<https://www.youtube.com/SAFtheaterchannel>



Facebook

彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan



Twitter

演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF
埼玉会館 @saitamakaikan



Instagram

埼玉会館 @saitamakaikan



www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第90号(2020年12月-2021年1月)

2020年12月1日発行(隔月1日発行)

発行人: 加藤 容一

発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1

TEL.048-858-5500